

児童の授業における表情の分析

—体育と他教科との比較—

学校教育教員養成課程 教科教育コース 保健体育専修 07PB605 川原 拓郎

I .研究の目的

小学校の体育科において、体力づくりを重視した目標から、楽しさを重視した目標へと変わっていった。今日の体育でも、生涯スポーツの概念からこの楽しさを重視した体育は重視されている。本研究では、楽しいという感情は、「笑顔」で表出することに着目し、体育の授業の中で、児童がどのような表情を表出するのか撮影を行い、表情分析を試み、さらに他教科と比較することにより、体育における児童の表情表出の特徴を明確にする。また、楽しい体育が、どのような意義を持つのかを、表情分析で明らかになった特徴を基に考察することを目的とする。

II .研究の方法

1. 撮影対象者

さいたま市内のS小学校に通う児童2名であり、学年は第2学年で、男子と女子各1名ずつである。

2. 撮影対象授業

今回、撮影対象とした授業は、体育の他に、算数、音楽の3教科である。撮影は各授業2回ずつ計6回行った。

3. 撮影の手順と分析方法

体育の授業の撮影は、児童が様々な方向へ顔を向けることから、1人の児童に対して2台のビデオカメラを用いて撮影した。算数の授業においては、教室の前方に、三脚固定をしたビデオカメラを1人の児童に対し1台ずつ設置し、撮影した。音楽の授業においては、三脚固定は行わず、対象の児童の表情を撮影した。そして、表情を撮影した映像を、Ekman(1972)が開発した表情分析法の「幸福」「嫌悪」「悲しみ」「恐怖」「驚き」「怒り」の6つの表情を分析した。表情の判定は、「幸福」の感情を「笑顔」と判定し、その他の「嫌悪」「悲しみ」「恐怖」「驚き」「怒り」についても、分析対象にし、記録を行った。

III .結果と考察

男子児童O君の、体育、算数、音楽の表情分析の結果をそれぞれ図1、図2、図3に示した。ここでは男子児童O君の結果を例に示した。それぞれの結果を比較してみると、体育が36.03%、算数が18.71%、音楽が25.69%と、体育の授業における笑顔の表出が最も多いことが分かった。無表情でいる時間も、他の算数、国語に比べて少ないことから、より長い時間、表情を表出していたことが分かる。

体育が、算数、音楽に比べ、たくさん笑顔を表出したことについて、体育は、算数をはじめとする机上で

行う教科と異なり、体を動かすことから、児童が運動することで楽しさを感じやすかったと考えられる。

クルム(1992)は、体育の教科内容領域に関して、「運動学習」「社会学習」「認知学習」「情意学習」の4つを提示した。体育だけが独自に持つ運動学習を重視することは当然のこと、今回の研究で、他の教科に比べ、多く笑顔を表出し、また、他の様々な表情を表出したことは、運動に対する関心、肯定的な価値観、愛好的態度といった体育の情意学習の側面からも重要な意義を有していると考えられる。また、教育の3つの達成目標の1つである、「豊かな人間性」を育むことに関しても、笑顔をはじめとして多く表情を表出していることから、体育は寄与していると考えられる。

IV .結論

体育は、算数、音楽に比べ、表情表出の時間が長く、中でも笑顔の表出時間が最も長かった。

また、楽しさを重視する今日の体育において、笑顔をはじめとする様々な表情を表出したことは、情意学習に貢献している。

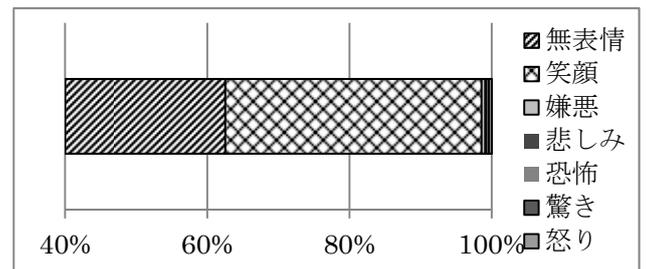


図1 O君の体育における表情表出の割合

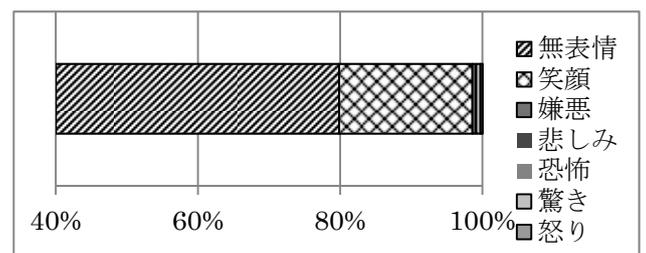


図2 O君の算数における表情表出の割合

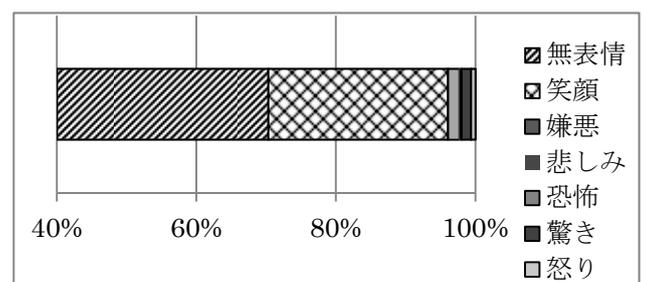


図3 O君の音楽における表情表出の割合